

Special Interview

社外取締役 中島 賢インタビュー

株式会社マダムおよびマダムグループについて、社外取締役就任4年目を迎えられた中島 賢氏に、上場企業経営に携わった経験から見たマダムの印象と、社外取締役の立場としての客観的なご意見をお聞きました。

客観的に見た現在のマダム

マダムグループを客観的に見た印象は、まず、先見の明があるということです。40年以上前にいち早くインドネシアに進出し、今や海外売上比率が5割に近づこうとしています。私も以前は、「ギャツビー」や「ルシード」といったブランドしか知りませんでしたが、実際に幅広く事業やブランドを展開しているのを知って、東南アジアに広く深く根ざした、本当にグローバルな企業だと実感しています。最近改めて感じるのは、マダムが経営の根幹として、マーケティングを重視しているということです。そこから生み出される商品開発力・アイデア力、加えてセンスの良さが強みあるいは特徴となっており、TVコマーシャルひとつを見ても斬新な打ち出し方をしていると思います。

他方、コーポレート・ガバナンスについては、内部監査も含め、制度や方針、取り組みなど、とても良く機能していると思います。情報開示もしっかりと行っていますし、私たちが出席する取締役会でも非常にオープンで、社外からの意見にもしっかりと耳を傾け、経営にも確実に活かされています。他社と比較しても全く遜色なく、むしろその透明性は高いものと評価しています。現在、長尾氏と私の2名が社外取締役として、加えて、前社外取締役の塚田氏も顧問として在任しており、この3名で、短期の事に目が行き過ぎるのではないかと、アグレッシブにさまざまな意見やアドバイスをしていますので、マダムにとっては少なくとも刺激になっていると考えています。

経営陣に期待すること

マダムにとって、次世代の育成は重要な経営課題のひとつだと考えます。創業家で現経営トップの西村社長は、本当に実直なうえ、卓越したリーダーシップを持っておら

れますので、全従業員から信頼と尊敬の念も厚く持たれています。一般的にオーナー企業はどこでも、次世代育成がひとつの経営課題になっていますし、我々社外役員としても、次世代育成も含め、会社の発展にとって何が良くて、何が悪いのか、社外取締役として公平・公正な目で、責任を持って監視やアドバイスをしていきたいと思っています。

さらに人財育成という面では、女性の幹部登用や権限委譲について、もっと積極的に取り組んで欲しいと考えています。現在、執行役員に1名だけ女性がいますが、2015年度からダイバーシティ推進室も設けられましたし、我々社外役員としても、進んでフォローしていければと思います。

マダムの将来像および課題について

独立役員の一員としてマダムの将来を考えますと、今後も規模の拡大ばかりに走ることなく、現在のオンリーワン経営を大事にして欲しいと思います。売上でトップになることを目指すのではなく、独自の開発力・技術力によって、誰もまねのできない、追いついて来られないモノを確立していくことこそ、マダムの“あるべき姿”だと思っています。

今後、グローバル企業を目指すマダムとしては、海外要員の育成も重要になってきます。売上の比率も、近い内に国内と海外が逆転すると思いますから、即戦力の採用もますます必要になるでしょう。現在日本の本社にいる執行役員や幹部の多くが海外での経験をつんでいます。後に続く若手社員の意欲向上のためにも、グローバル視点で人財を育成・登用できているか、しっかりと見て行きたいと考えています。

最後になりますが、アジアでの事業展開を通じてオンリーワン・カンパニーを目指すマダムグループの今後に、大いに期待します。



社外取締役 中島 賢

昭和28年12月8日生
 昭和51年4月 大阪瓦斯株式会社入社
 平成12年6月 大阪ガスセキュリティサービス株式会社 取締役
 平成16年6月 大阪瓦斯株式会社 秘書部長
 平成19年6月 同社執行役員
 平成20年6月 同社常務執行役員
 平成20年7月 社団法人(現 一般社団法人)日本ガス協会常務理事
 平成23年4月 株式会社オーガス総研 取締役会長
 平成25年6月 当社社外取締役(現任)
 平成28年6月 大阪ガスリキッド株式会社 常勤監査役(現任)